

発達特性のある子どもたちの指導法・援助法の実践セミナー研修

特定非営利活動法人 ともそだちプラネット

〒394-0044 長野県岡谷市湊5丁目13-7

助成事業の概要

都心部では発達障がいへの対応として、指導方法の研修が各種開催されているが、諏訪地域では機会がなく、保育士や教員が早期対応の方法に苦慮されているという現状があった。そこで28年度の情報発信事業として、発達に遅れや偏りをもつ子どもたちを支援する具体的な指導方法の研修を計画した。2回シリーズの1日セミナーとして研修会を11月と2月を計画した。実際は講師の都合等があり3月に開催した。内容は早期対応のプログラムとして、11月に応用行動分析に基づくポータージプログラムの理論と方法の研修、3月には実践事例の紹介や演習を中心とした実践セミナーを実施した。日本ポータージ協会から、会長の東洋大学教授の清水直治氏と大阪の悲田院の事業所の施設長の成澤佐知子氏を講師に招き質の高い研修を実施することができた。参加者は岡谷市内の保育園の保育士を中心に特別支援学校の教員、地域の学校の教員、障がい者支援の事業所の職員等、約80名の参加者があり熱心な学びの場となった。

事業の成果

ポータージプログラムは日本国内の多くの県で日本ポータージ協会の支部があり、ポータージプログラムによる相談活動や療育活動が行われているが、長野県では普及されておらず、研修の機会もなかった。今回、2回シリーズの研修会を企画するにあたって、発達支援に関わる

事業所や関係機関や学校、地域の行政に案内を送付したり、説明に出向いたりして、地域の療育について話をすることができた。早期対応の方法として具体的な療育プログラムがあることを諏訪全体に発進することができたことは、対応方法で悩む現場を抱える地域にとっては意味あることであったと思われる。

11月の研修では主にポータージプログラムの歴史や理論、ポータージプログラムの構成について学ぶ機会をもつことができた。参加者は主に保育士や教員であったが、「行動理論」や「強化子」、「刺激の制御」といった普段耳にしたことがない心理学の用語に戸惑いながらも、ポータージプログラムが応用行動分析の原理を適用していることを学ぶことができた。これまで発達障がいを理解するための研修に多く参加している保育士からは、できないことやうまくいかないことの原因を子ども個人の特性に由来すると考えるのではなく、環境と個体との相互作用の中で起こる行動を徹底的に調べると、いうアプローチは今まで経験したことがないものであり、新鮮であり納得できることが多いといった意見が出された。

本格的に療育プログラムの理論を学ぶといった機会は初めてであったと思われるが、理論に基づいて指導や援助をすることで、保育士や教員の個人の力量に委ねられるのではなく、チームで指導や援助ができる可能性を見出すことができた様子であった。

11月の研修終了後、実践編の研修を期待する声が多く寄せられたこともあり、研修3月に

実践編の1日研修を実施した。日本ポータージ協会からは、本来は2泊3日で行う内容を1日で行うという特別な研修内容を用意してもらうことができた。

実際に担当している子どもをイメージして課題分析の用紙に記入したり、行動目標を決めだしたりしたことで、目標のたて方や評価の仕方が具体的になった様子であった。11月に参加した方に加え初めて参加する方もおられたが、複数で参加している保育園もあり、学んだことを4月から園でとりいれたいという保育園もあった。また、ともそだちプラネットがポータージ相談の支部になってくれればもっと研修したり相談できるのでありがたいという声もあった。

内容的には深く難しい研修ではあったが、諏訪の地域に具体的な療育プログラムを紹介することができたことや、研修に参加された保育士や教員の方たちがプログラムの有効性を実感されて、自分の現場で実践したいと帰っていかれたことは大きな成果であったと考える。また、岡谷市の子ども課では、29年度に東京で開催されるポータージプログラムの初級研修（2泊3日）に職員が参加することが予定されており、この研修を機に地域の療育が発展していくことが期待される。

成果の広報・公表

地元の岡谷市民新聞と信濃毎日新聞に取り上げてもらい、当日の研修の様子を記事にして広く情報発信をすることができた。また、ともそだちプラネットの通信に掲載し、会員や関係者約200名に伝えた。また、ポータージ協会からも執筆依頼があり広報誌に載せてもらい、全国の会員や関係団体に送付してもらった。

そして、今回の「発達特性のある子どもたちの

指導法・援助法の実践セミナー」のまとめとしては、参加者の方たちの感想や意見を中心に研修の資料やポータージプログラムの概要について記載した報告集を作成することができた。この報告集は参加者の方たちに送付すると共に、発達障がいに関わる関係機関や団体、行政に送付したり届けたりして研修の様子を伝えることができた。また、諏訪地域障がい者自立支援協議会に出席し、報告集を紹介し、具体的な療育方法の研修を地域全体で企画することを提案することができた。

今後の展開

今回のセミナーで紹介したポータージプログラムについては岡谷市の保育園で実践されることが決定しており、ともそだちプラネットは相談員として保護者と保育園を支援しながら子どもたちの成長を見守っていくことになっている。保育園でのあそび単元のカリキュラムの作成や療育施設でのあそびの教室でのプログラム作成にも取り入れていくことになっており、今後、市としての取り組みが進んでいくことも予想される。そこで、ポータージプログラムに関してはともそだちプラネットの職員が認定相談員の資格申請をして日本ポータージ協会のスーパーバイズを受けられる体制を整えたい。

また、発達特性のある子どもたちの指導法、援助法は日々開発が進んでいるが、地方には情報が届きにくく、内容も伝わり難い。ともそだちプラネットとしては、アンテナを高くして有効な指導法や援助法を取り入れて、今後も地域全体に積極的に情報発信していきたい。